

小児各種疾患における腸管へのPVP漏出について

著者	辰野 克子
号	528
発行年	1968
URL	http://hdl.handle.net/10097/18592

氏 名 (本 籍) たつ の かつ と
辰 野 克 子

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 記 番 号 医 第 5 2 8 号

学位授与年月日 昭 和 4 3 年 3 月 4 日

学位授与の要件 学位規則第 5 条第 2 項該当

最 終 学 歴 昭和 3 6 年 3 月
群馬大学医学部卒業

学 位 論 文 題 目 小児各種疾患における腸管への P V P 漏出に
ついて

(主 査)

論文審査委員 教授 荒 川 雅 男 教授 山 形 敏 一

教授 菊 地 吾 郎

論 文 内 容 要 旨

PVP=Polyvinylpyrrolidone (分子量12600) を使用し, Schubert and Werner の生化学的定量的方法を用いて, 血行より腸管への漏出率を小児各種疾患において検討した。その結果, 正常児では, 24時間糞便と共に漏出した量は投与量の0~1.66%であり又, 以下の疾患では正常範囲の漏出率であつた。即ち, 上気道感染症, 気管支肺炎, 麻疹肺炎, 風疹, 単一症候性下痢症, 急性消化不良症, 食餌過誤による下痢, 胃腸炎, 慢性下痢症, 周期性嘔吐症, ポリオ型麻痺症候群, 出血性膀胱炎, 耳下腺炎, 突発性発疹, 疫痢, 神経芽細胞腫スチル氏病, くる病, 一過性蛋白尿, ターナー症候群及び腹膜炎の1例, 漿液性髄膜炎, 神経性食欲不振症。次にのべる疾患では正常範囲の2倍以上の漏出率をみた。即ち気管支喘息, 有痛性浮腫を伴えるSchönlein-Henoch紫斑病, 尋麻疹, 急性糸球体腎炎, ネフローゼ症候群を伴える腎炎, 猩紅熱, 欽欠乏性貧血, 慢性腎炎, ネフローゼ症候群, 新生児一過性浮腫, 慢性下痢症の1例, 週期性嘔吐症の1例。

すでに正常な生理的状态に於て血漿蛋白が消化管腔に漏出していることは1959年頃より明らかにされ, それが異常に大量に漏出することが低蛋白血症の原因となる点で臨床的に重要であり, 或種の疾患に於てこの現象が認められてProtein losing gastroenteropathy という概念で呼ばれる様になつてきた。漏出亢進又は生理的な漏出のメカニズムについては, 明らかでなく, そのメカニズム探究の第一段階として以上のデータは, 即ち, アレルギー機転が関与しているといわれる疾患に於て血行より腸管腔へ漏出亢進がみられたことにより, 蛋白漏出のメカニズムとしてアレルギー反応を, その一因子と考えるものである。

審 査 結 果 の 要 旨

PVP (分子量12600)を静注し、24時間の糞便中に排泄される量を、各種小児症患について検討したもので、正常小児においては投与量の0~1.66%が、糞便中に排泄される。尚PVPの定量は、Schubert及Werner法を使用しての結果である。正常値以上の糞便中排泄をみたものは、気管支喘息、Schönlein-Henoch病、尋麻疹、急性糸球体腎炎、猩紅熱、鉄欠乏性貧血、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、慢性下痢症、週期性嘔吐症および新生児一過性浮腫であつた。これらのもののうち、アレルギー性変化を基盤として発症すると考えられるものが多くふくまれ、かかる際には、腸管腔へのPVPが漏出するという所見は興味ある点といえよう。

よつて本論文は学位を授与するに値するものと認める。